

名学院大生

販売の難しさを味わう

南知多 地産利用メニュー苦戦

南知多町山海で二日、水着姿の女性らに盛んに声をかけたが、なかなか買ってもらえなかった。南知多ほんもん家」などで二十四日、名古屋学院大の学生らが同町の食材を使った食べ物を販売した。

商学部二年の十一人が授業の一環として実施。知多牛と同町産の野菜を入れたハンバーガーと、豊浜地区特産の魚醤が入ったラーメンを考案。学生らが二手に分かれ、ハンバーガーをビーチで販売。

南知多町産のレタスなどを使ったハンバーガーを売る学生ら＝南知多町山海の海水浴場で



「客が入っているほかの店と比べ、やり方もメニューの多さも全然違う」など、物を売る学生らは「初めは売れると思っただけ…」と。 (石井紀代美)